

○ワークショップ 「観光経済学」

開催責任者 経営学部 赤壁弘康

長谷川高則

2021年2月23日

オンライン開催 (Zoom ミーティング)

ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

南山経営研究センターの継続ワークショップ事業であり、観光経済学・観光経営学を研究対象とする研究者の研究成果発表と情報交換の場を提供することを主たる目的とする。

今年度も、これまで通り日本観光学会中部支部、観光経済経営研究会との共催で、中部支部総会・研究報告会・観光経済経営研究会総会を開催することとした。

当初は対面式での開催を目指したが、COVID-19の感染状況を考慮し、報告者・参加予定者の了解のもとにウェビナーによる開催とした。

◇報告者および題目

2021年2月23日(火) 南山大学経営研究センターワークショップ「観光経済学」ならびに観光経済経営研究会と共催によって、南山大学をホストとする Zoom オンラインミーティングにて開催

2020年度観光学会中部支部総会 (支部会員・本部役員のみ ブレークアウトルームにて) 報告事項、協議事項 長橋透 (青山学院大学) 副会長、赤壁弘康 (南山大学) 中部支部長

研究報告会 (メインルームにて 各報告時間 25分、質疑応答時間 5分)

- ① 論 題：戦国武将と方言の観光資源化の課題
報告者：渡辺潤爾 (東海学園大学経営学部)
- ② 論 題：観光による経済波及効果の推計：Go To トラベルを事例に
報告者：長原徹 (芝浦工業大学工学部)
- ③ 論 題：COVID-19からの輪島・能登の観光復興を目指して一能登観光における新たな経済指標の追求—
報告者：倉本啓之 (金沢大学大学院)・井出明 (金沢大学国際基幹教育院)

◇研究成果発表

赤壁弘康・竹澤直哉、「地域事業者間の自発的提携によって「地域の6次産業化」の実現は可能か? —2次産品が乳製品の場合—」、日本観光学会誌 60号、日本観光学会、pp.22-38、2019年12月。

赤壁弘康、「第1次産業事業者による6次産業化の経済メリット—不確実性に対するヘッジ効果を含めて—」日本観光学会誌 59号、日本観光学会、pp.1-15、2018年12月。